平成２６年度

「各教科と給食との連携および本格的農体験を位置づけた教育課程の編成」

モデル校の取り組み実践報告

伊那東小学校

平成２６年１１月１３日（木）

伊那市役所

本校の食育のねらい

１，栽培を通じて、作物自体やその成長を実感的に感じ、作物への関心や愛着を深める。

２，その作物を食べることで、作物の味わいに感謝の気持ちを持てるようにする。

３，相互に育てた作物を食べ合うことで、お互い仲間にも感謝の気持ちを持ちあう。

本校で行っている食育の活動

1，育てる　＝「作物に意識を深める」

A、具体的な世話活動　（畑作り・世話・予防消毒など）

B、「親しむ」ための活動　（絵に描く・感想文を書く）

2，食べる

①学年・学級で食べる・・・・・・・学年での間食

②学校のみんなで食べる・・・・ 全校給食

3，感想の交流・共有　＝「全校で紹介し合う」

〇放送　〇全校集会　〇校内の壁に写真掲示　など

本校で考える「栽培」と「食」の関係と願う意識

関係

○大事に育てる・・・・・・・命を「慈しむ」

↓

○それを食べる・・・・・・・命を「奪う」

本来、矛盾している関係

願う意識

◇「おいしい」・・・・・自分の側のみのとらえ

↓

◇「味に感謝」・・・・自分と作物の関係のとらえ

それ故の「願い」

なるべく身近（できれば毎日見る所）で育て

↓

日々成長する作物に「命」を感じ

↓

それを食べる（いただく）ことで、

↓

「作物への感謝の気持ち」を持てるようにする

各学年・係で　栽培した物　　学び

学年係	栽培物など	学び
1年	プランターきゅうり	目の前で育て 、食べる
2年	大豆	愛着 ゆえの おいしさ
3年	じゃがいも	保育園との提携 ・ 思いやり
4年	きゅうり・なすなど	苦労 と 味（食べ物の命）
5年	米	大変さ と 食べも物の重要さ
6年	内藤プロジェクト	過去の財産 と 慈しみ
花委員会	なす	育ちを見てきた食材 と 味
給食	アレルギー対応	安全への配慮

各学年・係の

「栽培」

「食べる活動」

映像

各学年・係の活動（写真）

１年

１年　毎日「水やり」をがんばりました。（教室前）

子ども達の願いを受けて成長したキュウリ

教室前で収穫した「キュウリ」を給食で

各学年・係の活動（写真）

２年

９月　大豆が「枝豆」として食べられるように！

１１月　収穫しました

各学年・係の活動（写真）

３年

３年　保育園と一緒にじゃがいもの種芋植え

長野日報　2014年（平成26年）7月25日　金

ジャガイモ「大きい」

伊那東小と竜東保が収穫

伊那市の伊那東小学校の3年生と竜東保育園の年長児は23日、近くの畑でジャガイモを収穫した。児童95人と園児47人は交流を深めながら、たくさんのジャガイモを掘った。

ジャガイモを掘り出す伊那東小3年生と竜東保育園年長児

子どもたちは4月、ジャガイモを育ててカレーを作ろうと計画。5月に種芋を植え、草取りを行ってきた。

児童と園児はペアになり、畑約45㎡で収穫作業を開始。協力して茎を抜き、両手で掘り出した。土の中から大きく育ったジャガイモが出てくると、「大きい」「いっぱいある」と歓声を上げて拾い集めた。額に汗を浮かべながら、一輪車6台に乗せ切れないほどのジャガイモを収穫した。

伊那東小の竹内瑛斗君(8)は「半分に切った種芋から、丸いジャガイモがたくさんできるのがすごい」と、話した。竜東保育園の原雅也君(6)は「ジャガイモを掘るのが楽しかった。食べるのが楽しみ」と、笑みを浮かべていた。

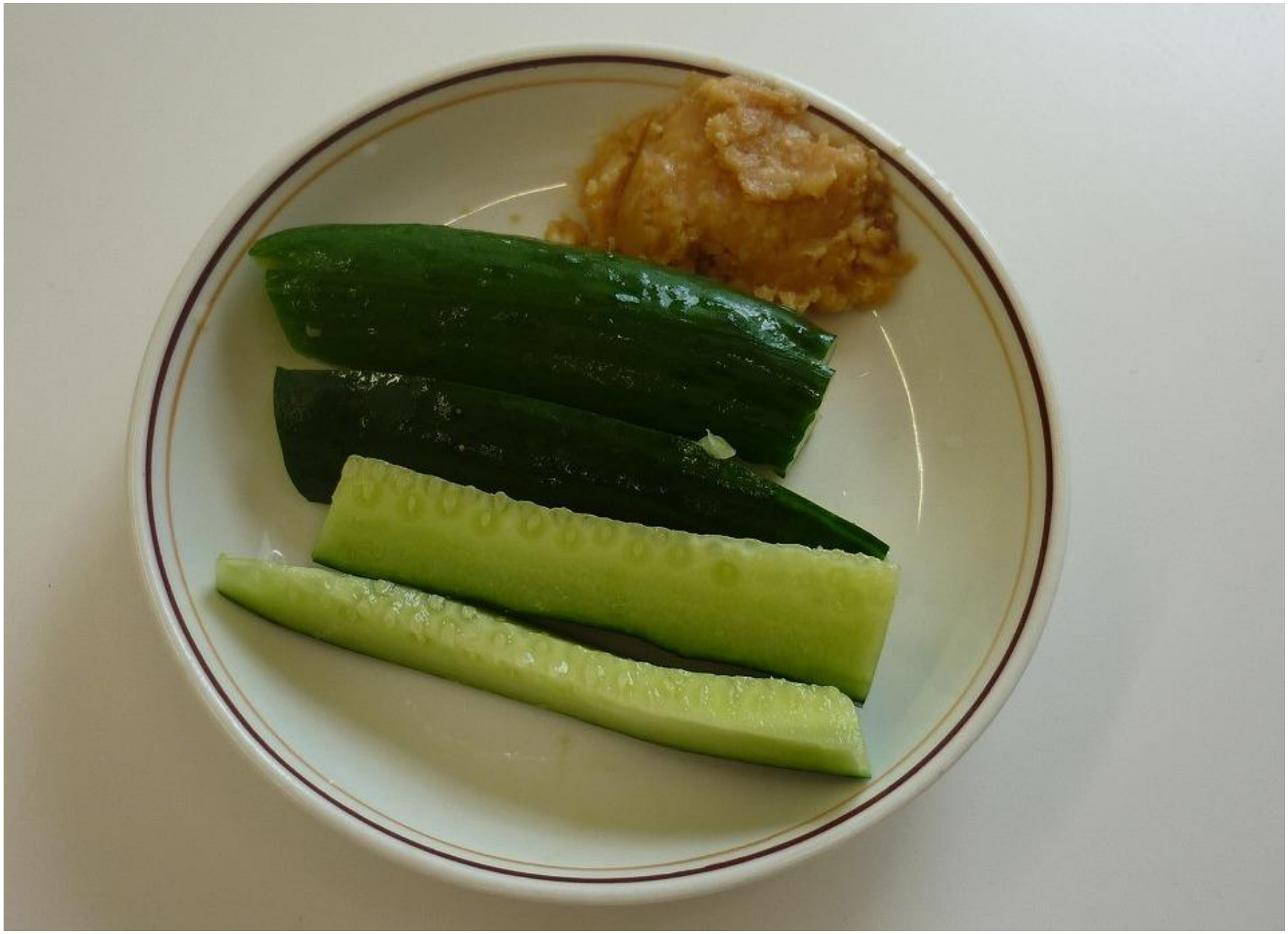
ジャガイモは夏休み明けのカレー作りに使うほか、同校と同園の給食などにも使用する予定。

長野日報新聞

各学年・係の活動（写真）

４年

子ども達の観察の絵と文



収穫したなすで「おやき」づくり

現在の4学年前の菜園

大根と白菜

各学年・係の活動（写真）

５年

代掻き見学 （5月）

脱穀 （足踏み脱穀機）１０月

脱穀後の田んぼへの「ワラ蒔き」（10月）

各学年・係の活動（写真）

６年

プロジェクト冊子

説明をお聞きする （6月）

「内藤とうがらしプロジェクト」代表の高島さん

日 金曜日 古紙100%使用 長野日報 第37158号 (昭和21年2月19日第三種郵便物認可

2014 6/20

内藤とうがらし 苗植え

高遠版プロジェクト 小学校で初栽培

伊那市伊那東小学校6年生は19日、旧高遠藩主の内藤家が江戸時代に新宿下屋敷（現東京都・新宿御苑）で栽培していたという「内藤とうがらし」の苗植えを同校で行った。同市高遠町で復活に取り組む「高遠版内藤とうがらしプロジェクト」（高島良幸代表）活動の一環で、小学校での苗植えは初めて。30人の児童は高島代表から内藤とうがらしの歴史や料理などの話を聞き、プランターに苗を植えた。

（藪原麻理子）

プロジェクトは2010年に新宿四谷地区協議会で発足。内藤とうがらしは、八房（やつふさ）と呼ばれる品種で、房に八つの実が天に向かって付くのが特徴。同プロジェクトで栽培、普及を図っている。ゆかりのある高遠でも活動を広げようと、12年に高遠版プロジェクトを開始。栽培や商品開発を行っている。

高島代表は「江戸時代、赤いじゅうたんを敷き詰めたようだと言われたほど、新宿周辺で盛んに育てられていた」と歴史を説明した。「タカノツメほど辛くなく、味と香りを楽しめる」と話し、チョコレートや、ゆずこしょうに使うなど、幅広い活用事例を紹介した。

児童一人ひとりがプランター1鉢に苗を2本ずつ植えた。慎重に苗と培養土を

内藤とうがらしの苗を植える伊那東小6年生

長野日報新聞

すくすく成長 （８月）

収穫 （10月）

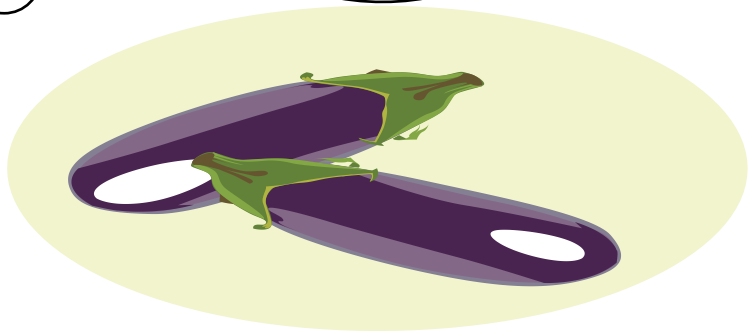
収穫 （10月）

「内藤とうがらし」で
スパゲティー
「ペペロンティーノ」

花委員会

7/9(水)（2年生）
キャベツと一緒に一夜漬け
はじめての包丁で
みんな真剣！！

おいしくできると
いいなぁ。



給食係

3年生の育てたじゃがいもを使って…

おいしいお料理に
してください!!
いつもおいしいけどね♪

はいは～い！おいしい
じゃがいももち が
できたよ！

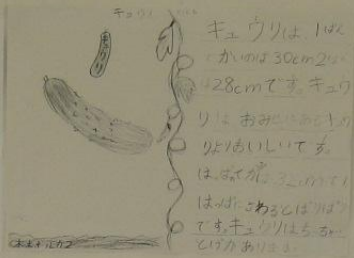
各学年・係の活動（写真）

全校掲示

広める活動 （中央廊下に活動を写真で紹介）

畑たんけん
大田先生の
手よりも大きい!!

⑤野菜
「きゅうり」
4年生のベランダ



⑥野菜
「なす」
電話ボックスの横

ぐんぐん
のびているよ！
およそ50cm。
（6/20げんざい）

7/4 1年生が
浅づけで
いただきました。

おいしい！
なす苦手だったけど
もっと食べたい!!

ごちそうさまでした☆

7/9(水)
キャベツと一緒に一夜漬け
はじめての包丁でみんな真剣！！

おいしくできるといいなぁ。

7/11 3年生
キュウリと
一緒に一夜漬け

ナスとキュウリ
はとっても合うね！！

7/22(火)学年全員で田の草取りをしました

⑦こめ
「もち米」
5年生の田んぼ

⑧野菜
「内藤とうがらし」
学童の横

7/25

各学年・係の活動での

「感想」

「学び取ったこと」

１学年

「キュウリ」栽培　　☆教室前にプランターで

〇毎日見ることで、

「だんだんと育っていく植物を自分達が『いただく』」

意識を。

「はなが7つで、はっぱが20まい。

くねくねしている。きゅうりは「し」のかたち。

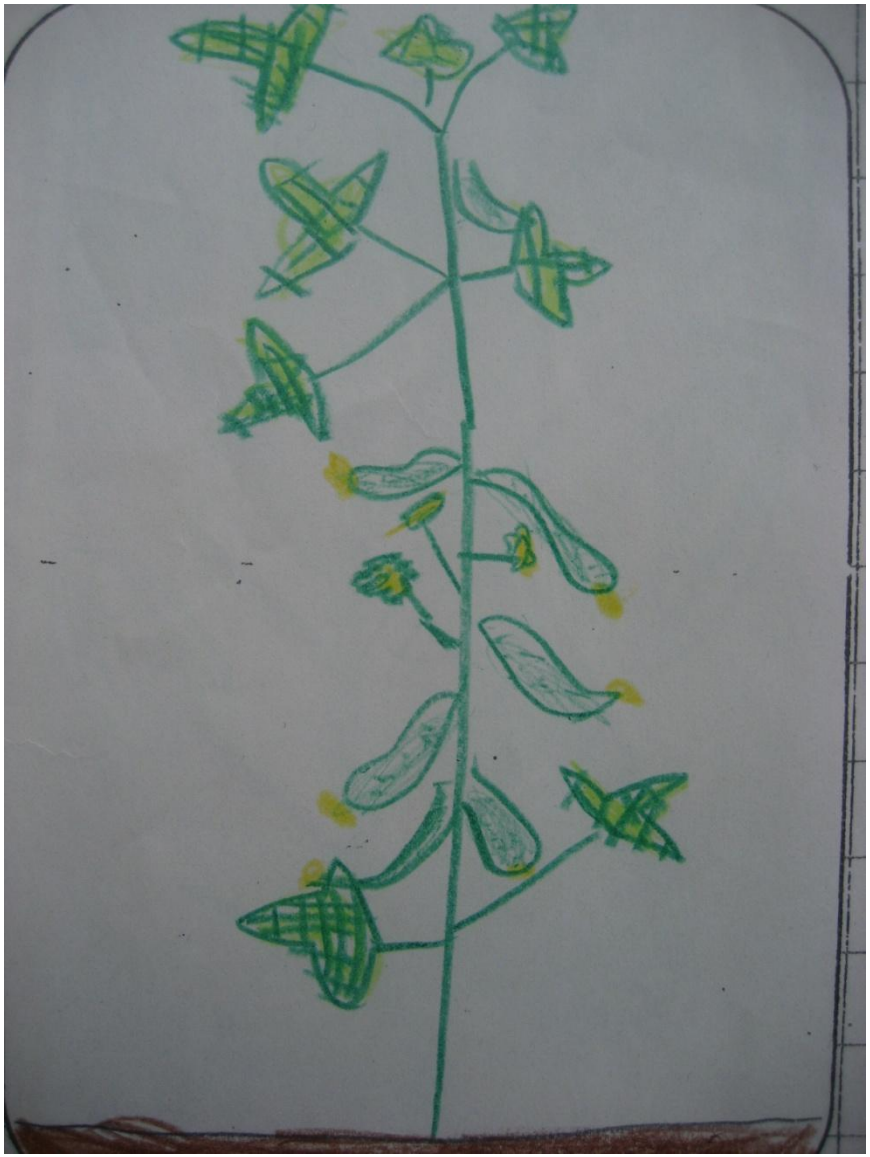
かたちのいいきゅうりがなってよかった。

おいしそう。はやくたべたい。」

キュウリへの愛着

※大事に育てる・・・・・・・命を「慈しむ」

子ども達が書いた観察の文と絵



2学年
「大豆」栽培

「じぶんたちで作るとこんなにおいしいんだなぁーと思いました。」

「はじめて食べたので、
ほんとおかわりしたくなるぐらいおいしいです。」

愛着
故の、生き物、栽培物としての
「実感的おいしさ」を感じることができた。

※ 自分達で作った → 「おいしい」

3学年

じゃがいも栽培

「土よせはたいへんで手がいたくなります。
でもおいものためだと思うとがんばれるので、
手のいたさをかんじない時があります。」

※大事に育てる・・・・・・・命を「慈しむ」

「ほいくえんのペアのひなのちゃんとは、
じゃがいもを育てる時からいっしょに育てて、
カレーを作るときもいっしょに楽しく作れて、
めんどうをよくみれて良かったです。」

（道徳「思いやりの心」）

※「おいしい」 → 楽しさに感謝

伊那 竜東保育園と伊那東小

農作業から料理まで一緒に

ジャガイモ収穫祝い カレー作り

伊那市竜東保育園の年長40人余が21日、隣の伊那東小学校で3年生約100人とカレーを作った。近くの畑で一緒に育てたジャガイモの収穫祝いで、市が目指す保育園と小学校の連携強化や食育充実の狙いもある。園児の手に児童が手を添え、ジャガイモの皮のむき方などを教えた。

ジャガイモ、ニンジン、タマネギの皮をむき、包丁で食べやすい大きさに切った。児童は園児に「手を切らないでね」と声を掛けたり、タマネギの皮をむいて目が痛くなった園児と代わってあげたり。出来上がったカレーはお昼に一緒に食べた。

年長の六波羅心君（6）は「（野菜を）切るって楽しいし、お兄さんやお姉さんが優しかった」。3年の女児（9）は「自分たちだけではなく一緒にやるので、保育園の子より一つ先を行くのが大事だと思った」と話していた。

園児にジャガイモの皮のむき方や芽の取り方を教える児童（右）

4学年

キュウリ・なす・ミニトマトの栽培

〇毎日見ることで、

「だんだんと育っていく植物を

自分達が『いただく』」意識を。

「ある日、小さいキュウリができました。

それから日がたっていって、最大のキュウリの長さが30cmになりました。

あんなに小さかった物がこんなに大きくなりました。」

※成長を見つめる・・・・命を「慈しむ」

「みそをつけて食べてみました。
みずみずしくてしゃきしゃきしていて、
店で買うキュウリよりおいしかったです。
このおいしさはみんなで一生けんめい育てたからだと思いました。」

○「自分達のがんばり」労力と「食べること」「味」が体験的に子どもの中で結びついた

※ 自分達もがんばった → おいしさに感謝

Dreams
Girlish Speed
HOME
CHANGE OF
LOVE&
PEACE
100%
MADE
ANYTIME GO
BUT NOTHING

5学年

お米（餅米）栽培

○「作る大変さ」と「食べ物の大切さ」

「稲刈りでは、お米を少し作るだけでも、

こんなに手間をかけて作っていることが分かりました。
稲刈りをして「育ててよかった。」と思いました。」

「脱こくをして、私達が普通に食べているお米は、この作業をするまでに、こんなに大変だとは思いませんでした。これからも、お米を大切に食べたいと思いました。」

※ 大変さが分かった →「大切に食べたい」

6学年

「内藤とうがらしプロジェクト」に参加しよう

江戸時代に旧高遠藩や江戸で栽培されていたとうがらし

小学生で育てるのは初

昔の作物を蘇らせ、作物や命を大切にする意識を

「料理のバリエーションの広さにびっくり。

心を込めて育てたい。」

※大事に育てる・・・・・・・命を「慈しむ」

児童会「花委員会」

なす栽培

〇毎日見ることで、

「だんだんと育っていく植物を自分達が『いただく』」

意識を。

毎日見ている

「あの野菜」

を食べる。

※「おいしい」

→「ありがとう」

給食係

児童の育てた作物を給食に

身近で見ながら、自分達で育てた作物

愛着

全校に提供できた

誇らしい気持ち・達成感

※ 食べてもらえた → 「うれしい」

児童の育てた食物を給食に

- きゅうり（1年、4年）
- じゃがいも（3年）
- なす（4年、花委員会）
- もち米（5年）
- 内藤とうがらし（6年）

各学年・係の活動での

「教科性」

国語

〇野外炊飯でじゃがいもを入れたカレーライス作り
　体験作文書き　　（3年「体験を作文に」）

〇収穫祭（PTA親子行事）での米作り体験作文発表
（5年「活動報告書」）

算数

〇キュウリの花・葉・実の数え（1年「数のけいこ」）

〇収穫じゃがいもの計量240kg（3年「計量」）

〇餅米の取れ高と収穫祭で作るの「もち」の計算
（5年「計算」）

理科

〇3ヶ月間のじゃがいも観察（3年「植物の観察」）

〇キュウリ23本　なす8本の植え付け・育成
（4年「植物の観察」）

図工

〇観察し、絵と文章で記録・絵手紙作成
（4年図工「絵手紙」 国語「観察文」）

道徳

〇保育園のペアの子に優しくしよう （3年）

生活科

〇大豆から「みそ」「とうふ」を作ろう（2年）

総合的な学習の時間

〇保育園の友達とじゃがいもを作って、ジャガイモカレーを作ってあげよう （3年）
〇学級前の放置花壇を「菜園」へ作り替えよう （4年）
〇自分達で「収穫祭」を作り上げよう （5年）
〇「内藤とうがらし」を復活させよう （6年）

各学年・係の活動での

様々な団体との提携

他機関との連携

学区内の専門家 「伊藤さん」

～園芸・栽培の専門家

（年に何度も園芸指導セミナー開催）～

○土作り指導

①プランター作り指導

②学校花壇の「菜園」への作り替え指導

＊４学年前と玄関前の花壇の土を劇的に改良

③職員にも「土の作り方」と「予防消毒」伝達し、

各学年の畑にもその方法を取り入れ。

地域の方との提携

北沢英樹さん

（学校西の狐島地区で一番広く田んぼを耕作）

米作り指導・・・・5学年に

①米作りについてのお話

②「代掻き」を実際に目の前でしていただく

③肥料・農薬の役割のお話と、肥料蒔き指導

④脱穀のご協力

⑤藁・秋肥料蒔きの必要のお話と児童の実施

学校保健委員会との提携

飯田女子短大　安富和子教授を招いて

〇咀嚼（そしゃく）の大切さの学び（職員）

①咀嚼の、脳や体の成長への影響を学ぶ

②「かみかみセンサー」の利用研究

＊児童の咀嚼の度合いを知るため

PTAとの提携

PTA作業での土作り・菜園応援

①1学年教室前のプランターの土作り

（1学年保護者）

〇「1年生の我が子のために、いいかげんな土は作れない」(父)

②4学年教室前の花壇→「菜園」の「手」づくり

〇キュウリの生長を願って

地域食材活用

（給食係･栄養士）

地域食材の活用

〇食材の購入に関して

3つの業者から見積もりを取り寄せ、入札。

選定条件は

①伊那産、②上伊那産、③長野県産、④国産

〇地域食材の日（おおむね月1回）

地域の郷土料理や伝統食材、地域で生産している加工品などを取り入れた献立。

安心・安全な食材の提供、地域理解、地域との繋がりを感じる

☆アスパラ農家への取材

アスパラ農家、山岸さんを取材

アレルギー対応

- 色違い食器の導入

  見た目ではわかりにくい対応食の時（つなぎに卵を使用したしゅうまいなど）でも、

  対応食であることが分かるように。

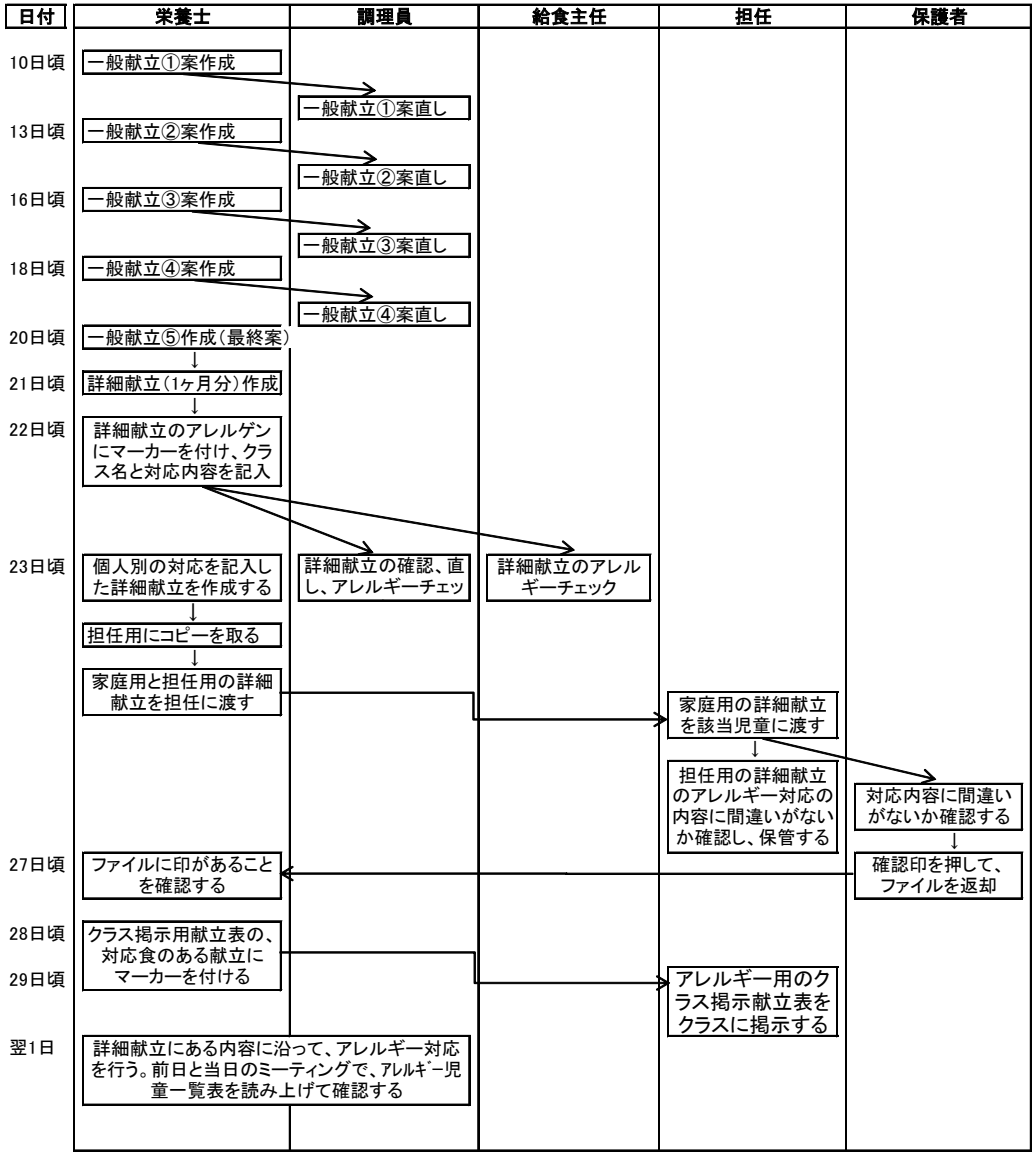
  自分だけでなく、

  担任や周りの児童への周知にもなる。

- アレルギー対応フローチャート

  一月のアレルギー対応の流れを図に

アレルギーフローチャート



終わりに

（今後の課題と展開）

1，意識の醸造

〇作物を「いただく」「ありがたい」という意識にはなかなか行かなかった。

＊更により実感的な育て方をしたり

＊教師が「意識が進む問いかけ」をしたりしそれらの意識に近づけたい。

2，共有の推進

〇全校集会で各学年の活動や思いを共有し合い、相互理解と相互影響を図る。